

新発田市地域公共交通網形成計画における評価指標の実績値関連／路線バスの年間利用者数の推移について

路線名	H29	H30	前年度比	見直し状況		見直しによる影響等	
	H28年10月～ H29年9月末			H29年10月～ H30年9月末	理由		内容
中条線	7,248人		-7,248人		平成29年9月末廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・中条線は、胎内市と当市を運行する路線 ・中条線の廃止区間において、新発田駅方面行き便を利用していただ方の一部（特に高校生）は、新路線の「金竜橋線」停留所から引き続きバスを利用している状況が見られる。 ・3路線平均 3.7人/便 ⇒ 見直し路線 5.8人/便となっており、運行状況は改善している。 ・運行便数が8,439便から2,196便と大幅に減少したことが、利用者数減少の大きな要因となっている。 	
佐々木・稲荷岡線	11,119人		-11,119人	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少 ・運転手不足 ・中条線と藤塚浜線は、当市運行区域内においては、ほぼ運行ルートが重複している。 	平成29年9月末廃止		
藤塚浜線⇒金竜橋線	13,126人	12,674人	-452人		<ul style="list-style-type: none"> ・利用実態に応じて、当該3路線のうち利用者ニーズの高い便を残して減便（1日当たり25便⇒9便の△16便）、運行ダイヤ見直し ・藤塚浜線と佐々木・稲荷岡線の一部区間を統合して平成29年10月から運行 		
佐々木・次第浜線	2,500人		-2,500人		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少 ・運転手不足 	平成29年9月末廃止	
次第浜線	21,747人	11,647人	-10,100人	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少 ・運転手不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月減便（1日12往復→6往復） ・高校生が登下校で利用する便は維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖籠町と当市を運行する路線 ・運行便数が6,352便から2,928便と大幅に減少したこと、利用は数減少の大きな要因となっている。 ・見直し後、当市利用者の利用状況に大きな変化は認められなかったが、聖籠町の利用者数は大きく減少した。これは、減便によって買い物や通院等における利便性が低下したものと考えられるが、高校生の通学手段としては引き続き利用されている。 	
新谷線	12,619人	13,569人	950人		平成30年4月運行ダイヤ見直し		
東赤谷線	17,676人	3,235人	-12,185人	<ul style="list-style-type: none"> ・学校統合に伴う通学支援に対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年3月末に一部区間を廃止、始終点を東赤谷から赤谷六軒町に変更して、赤谷六軒町線へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・新谷線は、阿賀町と当市を運行する路線 ・東小学校の開校に伴い、平成30年4月から児童の登下校に利用されている。 ・登下校に対応するため、運行ダイヤを見直したことによって、赤谷六軒町線（東赤谷線）から新谷線への利用へと移行するなどの変動が見られる。 ・運行ダイヤの見直しによって、通院等に利用するのに不便になったとの声が聞こえるなど、利便性の低下によって利用者数が減少したものと考えられる。 ・新谷線を活用して阿賀町から当市高校へ通う生徒が減少するなど、公共交通を活用した当市への移動が少なくなっている。 ・なお、新谷線は、平成29年10月運行から国県補助対象外路線となっている。 	
小戸・東赤谷線	5,750人	1,134人					<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年4月新設 ・沿線小中学校の通学手段として活用できるように、赤谷方面行きを2便増便し、小戸経由便を増便するとともに、運行ダイヤを見直し
赤谷六軒町線		905人					
小戸・赤谷六軒町線		5,967人					
飯島線	2,485人	1,081人	-1,404人	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少 ・運転手不足 	平成30年3月減便（1日4往復→2往復）	<ul style="list-style-type: none"> ・運行便数の減少により利用者数が減少 	
天王・松浦線	5,218人		-9,056人	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少 ・運転手不足 ・ほぼ運行ルートが重複している。 	平成29年9月末廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・天王・松浦線の廃止に伴って乗廻・松浦線を増便したものの、見直し前に比べて運行便数が1,956便から1,472便と減少したこと、利用実態を把握し、大きく利便性が低下しないよう運行内容の見直しを行ったものの、度重なる運行見直しに影響し、利用者が減少したものと考えられる。 	
乗廻・松浦線	10,169人	2,628人			<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月天王・松浦線廃止に伴い、3便→4便に増便 ・平成30年3月末で一部区間を廃止し、経路及び運行ダイヤを見直し、乗廻・月岡線へ 		
乗廻・月岡線		3,703人					
	109,657人	56,543人	-53,114人				